

伸長を図りたい子供の持つ可能性(2) －生涯学習の視点に立って－

Bring up The Children's Possibility (2) － A Visual Point of Life Studies －

熊田藤作・柴崎正行・柳下昭夫・高橋裕子・菊池健夫・福田啓子

Tousaku KUMADA, Masayuki SHIBASAKI, Akio YAGISHITA,
Yuuko TAKAHASHI, Takeo KIKUCHI and Keiko FUKUDA

はじめに

個性を尊重することについては、戦後、提唱され続けてきたが、効率を上げる必要性から画一的な教育が行われてきたことは事実である。

現代の社会の思潮とともに教育の見直しが図られ、個性を生かす指導について工夫されつつあるが子供がどのような力を持っているのかが明確でない。子供の持っている資質や能力について把握し、生涯学習の視点に立って、可能な限りの伸長を図るこれからの教育に生かすことを研究の目的とする。この目的によって研究主題を表題のように設定した。

本研究主題の解決に当たっては、グループのメンバーの専門とする領域等について、主要な資質や能力を抽出し、子供がどのように身に付けていくのかを明らかにすることを考えた。しかしながら、その前提として学校教育に様々な課題があることを把握しておく必要があるのではないか。またその確認を通し、メンバーの専門とする領域等について、主要な資質や能力を抽出し、子供がどのように身に付けていくのかを明らかにすることができる。

このような考えに基づいて、初年度である平成8年度から平成9年度の研究の経緯を以下に記述する。

I 社会から学校教育への要請

学校教育に様々な課題すなわち、どのような

人間を育てることを社会が要請しているのかを把握するため、中央教育審議会や教育課程審議会の答申等に注目してみた。後記の参考文献にある通り、本グループで取り上げた事項は16あるが、主要な事項は下記のものである。

□主要な事項

(1) 昭和40年 中央教育審議会「期待される人間像」から検討した。特に、

第二部「日本人に特に期待されるもの」

(1章) 個人として

- ① 自由であること
- ② 個性を伸ばすこと
- ③ 自己を大切にすること
- ④ 強い意志をもつこと
- ⑤ 畏敬の念をもつこと

(2章) 家庭人として

- ① 家庭を愛の場とすること
- ② 家庭の憩の場とすること
- ③ 家庭を教育の場とすること
- ④ 開かれた家庭とすること

(3章) 社会人として

- ① 仕事に打ち込むこと
- ② 社会福祉に寄与すること
- ③ 創造的であること
- ④ 社会規範を重んずること

に着目した。

(2) 昭和56年 中央教育審議会「生涯教育について」は、最も重視した事項である。

(第3章) 成人するまでの教育

1. 人間形成の基礎を培う教育の重要性
2. 家庭教育の充実
3. 学校教育における生涯教育の観点の重視

① 学習のための意欲, 能力の涵養

幼稚園教育においては, 幼児の情操や創造性を育むとともに, 集団生活を通じて社会性を養うことが必要である。

小学校教育においては, まず児童の学習意欲の芽を育むことに教育の主眼を置き, 具体的な活動を通じて学習指導を展開し, 基礎的な知識・技能を修得させることを重視すべきである。また, 児童の発達に応じて, 一人一人が自主的に学び, 活動する力を養うため, 児童の多様な能力・関心に積極的に働きかけるように努めるとともに, 学年を超えた異年齢層の児童の接触・交流がもたらす教育的効果にも配慮し, その一層の推進を図ることが望まれる。

(3) 昭和58年 中央教育審議会 教育内容等

小委員会審議経過報告

一, 時代の変化と学校教育の在り方

4. 今後特に重視されなければならない視点

- ① 自己教育力の育成
- ② 基礎・基本の徹底
- ③ 個性と創造性の伸長
- ④ 文化と伝統の尊重

(4) 昭和62年 臨時教育審議会「我が国における社会の変化及び文化の発展に対応する教育の実施を期して各般にわたる施策に関し必要な改革を図るための基本的方策について」

第四次答申(最終答申)

二, 教育改革の視点

1. 個性重視の原則
2. 生涯学習体系への移行
3. 変化への対応

①国際社会への貢献 ②情報社会への対応

(5) 昭和62年 教育課程審議会「幼稚園, 小学校, 中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について」

一, 教育課程の基準の改善の方針

1. 教育課程の基準の改善のねらい

- ・ 豊かな心を持ち, たくましく生きる人間の育成を図ること
- ・ 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること
- ・ 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し, 個性を生かす教育の充実を図ること
- ・ 国際理解を深め, 我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること

(6) 平成元年 文部省「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」

(7) 平成2年 中央教育審議会「生涯学習の基盤整備について」

(8) 平成7年 第15期中央教育審議会発足
(平成7.4.26)

(諮問事項)

21世紀を展望した我が国の教育の在り方について

- ① 今後における教育の在り方及び学校・家庭・地域社会の役割と連携の在り方
- ② 一人一人の能力・適性に応じた教育と学校間の接続の改善
- ③ 国際化, 情報化, 科学技術の発展等社会の変化に対応する教育の在り方

(9) 平成8年 中央教育審議会第一小委員会「審議のまとめ」(平成8.7.19)
〈教育内容の重点化〉

- ① 国語を尊重する態度を育てるとともに, 国語により適切に表現する能力と的確に理解する能力を養い, 思考力, 想像力, 言語感覚を育てること
- ② 様々な事象を数理的に考察し, 処理する能力と論理的な思考力を育てること
- ③ 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情, 世界と日本との関わりについての理解を図ること
- ④ 諸外国の文化に対する理解とこれを尊重する態度及び外国語によるコミュニケー

ジョン能力を育てること

- ⑤ 民主的社會の一員としての基本的な知識と態度，社会的事象についての公正な判断力を育てること
- ⑥ 自然や科学についての見方や考え方，科学的思考力・判断力を育てること
- ⑦ 家庭生活や社会生活の意義や向上改善のために必要な基本的知識，技術の習得，職業や家庭生活に関する主体的実践的な態度を育てること
- ⑧ 表現・鑑賞活動を通して，音楽や美術など芸術を愛好する心得，芸術に対する豊かな感性，情操の基礎を育てること
- ⑨ 運動活動，健康保持増進活動等を通して，運動に親しむ習慣，健康で安全な生活を生涯にわたって送る態度の基礎を培うこと
- ⑩ 情報の理解，選択，処理，創造などの能力及び情報手段を活用する能力や態度を育てること
- ⑪ 新しい課題を見出し，それに対して，身に付けた知識や技能を総合的に活用して，問題解決や探究活動に主体的に取り組む能力や態度を育てること
- ⑫ 自らを律しつつ，他人を思いやる心，生命を尊重する心や感動する心，公德心，ボランティア精神，郷土や国を愛する心，世界の平和や国際親善に努める心など豊かな人間性を育てるとともに，自分の生き方を主体的に考える態度を育てること

<生きる力>

家庭教育の在り方において

- ① 基本的な生活習慣・生活能力の習慣
- ② 豊かな情操の形成，他人に対する思いやり，善悪の判断などの基本的倫理観
- ③ 自制心，自立心
- ④ たくましい健康と体力

II 児童に関する調査

菊池 健夫

平成9年度は，幼児に関わる事項についても調査研究した。はじめに，児童に関わる事項について記述する。

1. 資質や能力等の抽出

これまでの中央教育審議会や教育課程審議会の答申等に基づいて，そこで提唱されている資質や能力並びに態度を客観的に抽出してみた。

それが以下の1.から8.の内容項目である。

(1) 心に関する項目

- ① 学習意欲
- ② 真理を求める心
- ③ 自然を愛する心
- ④ 美しいものに感動する心
- ⑤ 崇高なものに感動する心
- ⑥ 生命を尊重する心
- ⑦ 他人を思いやる心
- ⑧ 感謝の心
- ⑨ 公共のために尽くす心
- ⑩ すこやかな精神
- ⑪ すこやかな身体
- ⑫ 基本的な生活習慣
- ⑬ 社会規範を守る態度
- ⑭ 自律・自制の心
- ⑮ 強靱な意志と実践力
- ⑯ 自ら生きる目標を求めその実現に努める態度

(2) 学習に関する項目

- ① 思考力，想像力
- ② 論理的な思考力
- ③ 基本的な知識と態度
- ④ 公正な判断力
- ⑤ 科学についての見方や考え方
- ⑥ 科学的思考力・判断力
- ⑦ 生活向上改善のために必要な基本的知識，技術

(3) 問題解決等に関する項目

- ① 情報の理解, 選択, 処理, 創造などの能力
 - ② 情報手段を活用する能力や態度
 - ③ 問題解決や探究活動に主体的に取り組む能力や態度
 - ④ 自らを律しつつ, 他人を思いやる心
 - ⑤ 生命を尊重する心や感動する心
 - ⑥ 豊かな人間性
 - ⑦ 自分の生き方を主体的に考える態度
- (4) 生活に関する項目
- ① 基本的な生活習慣
 - ② 基本的な生活能力
 - ③ 豊かな情操の形成
 - ④ 自制心
 - ⑤ 他人に対する思いやり
 - ⑥ 自立心
 - ⑦ 善悪の判断などの基本的倫理観
- (5) 学習指導要領の趣旨に関する項目
- ① 心豊かに, 主体的, 創造的に生きていく力
 - ② 関心や意欲とともに, よりよいものを目指そうとする自己実現の態度
 - ③ 思考力や判断力
 - ④ 自分の課題や意図を解決したり, 実現したりする能力
 - ⑤ 表現する能力や技能
 - ⑥ 学習や生活に生きて働く知識や理解の能力
- (6) 豊かさたくましさに関する項目
- ① 真理を求める心や自然を愛し美しいものや崇高なものに感動する心を育てること
 - ② 生命を尊重する心や他人を思いやる心を育てること
 - ③ すこやかな精神と身体を育てること
 - ④ 自律・自製の心や強靱な意志と実践力を育てること
 - ⑤ 自ら生きる目標を求めその実現に努める態度を育てること
- (7) 平成8年 中央教育審議会第一小委員会

「審議のまとめ」に関する項目

- ① 様々な事象を数理的に考察し, 処理する能力と論理的な思考力を育てること
 - ② 自然や科学についての見方や考え方, 科学的思考力・反弹力を育てること
 - ③ 情報の理解, 選択, 処理, 創造などの能力及び情報手段を活用する能力や態度を育てること
 - ④ 新しい課題を見出し, それに対して, 身に付けた知識や技能を総合的に活用して, 問題解決や探究活動に主体的に取り組む能力や態度を育てること
 - ⑤ 自らを律しつつ, 他人を思いやる心, 生命を尊重する心や感動する心, 公德心, ボランティア精神, 郷土や国を愛する心, 世界の平和や国際親善に努める心など豊かな人間性を育てるとともに, 自分の生き方を主体的に考える態度を育てること
- (8) 生きる力に関する項目
- ① 基本的な生活習慣・生活能力の習慣
 - ② 豊かな情操の形成, 他人に対する思いやり, 善悪の判断などの基本的倫理観
 - ③ 自制心, 自立心
 - ④ たくましい健康と体力

2. 調査の実施

(1) 平成8年度の調査

小学校では各事項の中では, どれを重視しているのか, 教員を対象として調べてみることにした。アンケート調査の形式をとることとし, 心に関する事項, 態度に関する事項, 生活に関する事項, 学習に関する事項, 生きる力に関する事項そのものどことが重視されているのか, その傾向を把握することを目的として, 60項目一括方式を採用した。

都内公立小学校5校の教員を対象に依頼した。また, 教科教育法をほとんど履修している本学児童学科児童教育専攻の3年生についても実施した。その結果は本研究の第1報として報告した。

(2) 平成9年度の調査

小学校において、子供はどのように意識しているのか、児童を対象として調べてみることにした。教員対象は60項目であったが、小学校高学年児童に理解できる用語に修正したところ、全部で56項目になった。

児童を対象とするとき、主体的、基本的、自立等を明確に把握させることは難しく、また、生活習慣、生活態度、生活能力等を区別するのも難しい。なお、外国語については、提言されてはいるが、実施している小学校は皆無に等しい。これらの事柄を勘案して4項目減少した。

それが、右記の表1である。調査に当たっては、項目の前に記してある番号順で通した。すなわち、56項目の一括方式を採用した。

これらの各項目について、「十分に持つ」「やや多く持つ」「普通に持つ」「少し足りない」「全く持たない」を付け、該当欄に印を記する方式にした。

(3) 調査の結果

都内の公立小学校10校に、5年生を対象に調査を依頼し、5年生男子177名、女子159名、計336名の回答を得た。

男子の結果は表2、女子の結果は表3、全体は表4の通りである。男女による大きな違いは見られず、概ね同じ傾向であるが、多少の違いを挙げると次のようなことが言える。

① 心に関わる事項

男子は生命尊重の、女子は自然愛護の心があるとしている。

② 態度に関わる事項

男子は実行力が、女子は社会的関心が低い。

③ 生活に関わる事項

男子は生き方を考える、女子は善悪の判断を上位に挙げている。

④ 学習の仕方に関わる事項

男子は創造力、女子は表現力がある。

⑤ 各教科等に関わる事項

男子は運動を女子は音楽を第一としている。

表1 子供の持つ資質や能力

資質や能力	
心に関わる事項	
1. 正しいことを大切にすること	
2. 知識を求める心	
3. 自然を愛する心	
5. 美しいものに感動すること	
6. 優れているものに感動すること	
7. 生命を尊重する心	
8. 他人を思いやる心	
9. 感謝の心	
10. 公共のために尽くす心	
12. 健やかな心	
13. 豊かな心	
	11項目
態度に関わる事項	
14. 自然に対する興味や関心	
15. 社会に対する興味や関心	
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度	
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度	
19. 強い意志と実行する力	
21. 社会のきまりを守る態度	
	6項目
生活に関わる事項	
4. 自分の方で物事をやっていこうとする心	
11. 自分の感情をおさえる心	
18. 自分の生き方を自分で考える態度	
20. 日常の生活のしかた	
22. 良いこととわるいことの判断	
23. だれに対しても同じように接する態度	
27. 生活を向上させる知識や方法	
39. 民主的社会の一員としての自覚	
	8項目
学習の仕方に関わる事項	
24. 学習に対するやる気	
25. すみちを立てて考える力	
26. 新しいことを考え出す力	
28. 音声や絵図などで表現する力	
29. 学習したことの知識	
30. 問題を自分の力で解決する力	
31. 分からないことがらを自分の力で探し出す力	
	7項目
各教科等に関わる事項	
32. 国語を尊重する態度	
33. 正しい言葉で適切に表現する力	
34. 国語を正しく理解する力	
35. 日本の文化と伝統を大切に思う心	
36. 世界と日本とのかわりについての知識	
37. 諸外国の文化を大切に思う心	
38. 諸外国の文化についての知識	
41. 算数で考えたり計算したりする力	
42. 理科で考えたり観察したりする力	
43. 音楽が好き	
44. 図画工作が好き	
45. 芸術に対する豊かな心	
46. 家庭生活や社会生活を向上させる力	
48. 運動に親しむ習慣	
49. 健やかな身体	
	15項目
生きる力に関わる事項	
40. 社会のできごとを公正に考える力	
47. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	
50. たくましい体力	
51. 道徳を大切にすること	
52. コンピュータを活用する力	
53. 身に付けた知識や技能を活用する力	
54. ボランティア活動を大切にすること	
55. 郷土や国を愛する心	
56. 世界の平和や国際親善に努める心	
	9項目

表2 子供の持つ資質や能力 5年生男子

資質や能力	十分に持つ やや多く持つ ふつうに持つ 少し足りない 全く持たない					小計	A+B
	A	B	C	D	E		
心に関わる事項							
7. 生命を尊重する心	61	40	56	15	1	173	101
9. 感謝の心	42	55	60	15	4	176	97
3. 自然を愛する心	53	41	51	28	4	177	94
2. 知識を求める心	33	56	50	32	6	177	89
6. 優れているものに感動する心	47	37	59	25	6	174	84
8. 他人を思いやる心	27	57	54	33	3	174	84
13. 豊かな心	31	48	61	29	6	175	79
12. 健やかな心	31	40	74	26	7	178	71
5. 美しいものに感動する心	37	31	55	40	14	177	68
1. 正しいことを大切にすること	16	48	81	28	4	177	64
10. 公共のために尽くす心	11	35	76	46	7	175	46
態度に関わる事項							
14. 自然に対する興味や関心	51	41	54	25	3	174	92
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度	43	48	49	29	8	177	91
15. 社会に対する興味や関心	31	48	50	34	10	173	79
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度	35	43	65	23	9	175	78
21. 社会のきまりを守る態度	23	47	59	37	11	177	70
19. 強い意志と実行する力	27	41	67	32	9	176	68
生活に関わる事項							
18. 自分の生き方を自分で考える態度	39	56	51	22	5	173	95
22. 良いこととわるいことの判断	41	46	53	30	7	177	87
4. 自分の力で物事をやっつけようとする心	24	52	58	41	1	176	76
20. 日常の生活のしかた	29	46	55	35	9	174	75
27. 生活を向上させる知識や方法	21	48	71	29	5	174	69
11. 自分の感情をおさえる心	18	43	61	44	7	173	61
23. だれに対しても同じように接する態度	24	31	61	44	12	172	55
39. 民主的社會の一員としての自覚	13	39	60	41	24	177	52
学習の仕方に関わる事項							
26. 新しいことを考え出す力	48	54	45	19	7	173	102
28. 音声や絵図などで表現する力	38	50	50	30	5	173	88
24. 学習に対するやる気	26	57	55	28	11	177	83
30. 問題を自分の力で解決する力	31	47	55	35	8	176	78
29. 学習したことの知識	15	51	64	37	10	177	66
31. 分からないことがらを自分の力で探し出す力	20	42	65	34	13	174	62
25. すじみちを立てて考える力	22	39	73	34	6	174	61
各教科等に関わる事項							
48. 運動に親しむ習慣	84	39	33	13	4	173	123
44. 図画工作が好き	86	36	25	12	13	172	122
49. 健やかな身体	59	47	39	19	9	173	106
42. 理科で考えたり観察したりする力	52	49	37	30	4	172	101
43. 音楽が好き	61	31	37	18	24	171	92
41. 算数で考えたり計算したりする力	47	44	53	23	8	175	91
45. 芸術に対する豊かな心	45	35	53	27	12	172	80
35. 日本の文化と伝統を大切に思う心	40	34	58	32	12	176	74
34. 国語を正しく理解する力	25	44	53	39	16	177	69
46. 家庭生活や社会生活を向上させる力	27	40	68	27	11	173	67
32. 国語を尊重する態度	23	39	59	34	17	172	62
33. 正しい言葉で適切に表現する力	22	34	68	38	15	177	56
36. 世界と日本とのかかわりについての知識	15	35	53	49	23	175	50
37. 諸外国の文化を大切に思う心	15	26	64	42	25	172	41
38. 諸外国の文化についての知識	8	24	60	46	34	172	32
生きる力に関わる事項							
47. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	65	45	39	20	3	172	110
50. たくまい体力	55	43	42	22	10	172	98
55. 郷土や国を愛する心	52	45	49	25	6	177	97
52. コンピュータを活用する力	51	45	40	14	23	173	96
53. 身に付けた知識や技能を活用する力	29	50	58	29	9	175	79
51. 道徳を大切にすること	32	43	63	24	11	173	75
54. ボランティア活動を大切にすること	28	46	54	32	11	171	74
56. 世界の平和や国際親善に努める心	37	36	59	22	17	171	73
40. 社会のできごとを公正に考える力	20	42	66	29	14	171	62
合計	1986	2409	3128	1666	573	9762	
					N=177		

伸長を図りたい子供の持つ可能性

表3 子供の持つ資質や能力 5年生女子

資質や能力	十分に持つ やや多く持つ ふうじんに持つ 少し足りない 全く持たない					小計	AとB
	A	B	C	D	E		
心に関わる事項							
3. 自然を愛する心	55	50	34	16	0	155	105
7. 生命を尊重する心	53	49	47	9	1	159	102
9. 感謝の心	40	56	47	16	0	159	96
8. 他人を思いやる心	37	56	50	16	0	159	93
5. 美しいものに感動する心	49	43	46	17	4	159	92
6. 優れているものに感動する心	25	56	56	19	2	158	81
13. 豊かな心	26	47	63	19	4	159	73
12. 健やかな心	21	51	68	17	2	159	72
1. 正しいことを大切にすること	12	51	76	20	0	159	63
2. 知識を求めようとする心	19	41	65	27	4	156	60
10. 公共のために尽くす心	15	44	63	31	5	158	59
態度に関わる事項							
14. 自然に対する興味や関心	56	47	35	19	2	159	103
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度	37	49	43	29	1	159	86
19. 強い意志と実行する力	29	43	49	32	6	159	72
21. 社会のきまりを守る態度	23	47	55	26	7	158	70
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度	26	43	65	18	6	158	69
15. 社会に対する興味や関心	24	37	47	45	6	159	61
生活に関わる事項							
22. 良いこととわるいことの判断	56	41	37	20	3	157	97
18. 自分の生き方を自分で考える態度	40	47	39	28	5	159	87
11. 自分の感情をおさえる心	26	50	58	22	3	159	76
4. 自分の力で物事をやっていこうとする心	26	45	54	31	3	159	71
20. 日常の生活のしかた	26	43	64	18	4	155	69
23. だれに対しても同じように接する態度	21	37	60	36	3	157	58
27. 生活を向上させる知識や方法	17	37	73	26	5	158	54
39. 民主的社会の一員としての自覚	12	23	56	48	17	156	35
学習の仕方に関わる事項							
28. 音声や絵図などで表現する力	42	49	40	24	1	156	91
26. 新しいことを考え出す力	24	50	58	25	2	159	74
24. 学習に対するやる気	21	46	56	32	1	156	67
30. 問題を自分の力で解決する力	26	36	55	39	3	159	62
29. 学習したことの知識	14	41	64	31	6	156	55
25. すじみちを立てて考える力	18	35	70	32	3	158	53
31. 分からないことがらを自分の力で探し出す力	16	37	61	36	5	155	53
各教科等に関わる事項							
43. 音楽が好き	103	22	26	7	1	159	125
44. 図画工作が好き	84	34	21	11	6	156	118
42. 理科で考えたり観察したりする力	47	51	37	19	3	157	98
45. 芸術に対する豊かな心	41	55	42	12	5	155	96
49. 健やかな身体	37	48	46	21	5	157	85
48. 運動に親しむ習慣	45	37	45	22	5	154	82
41. 算数で考えたり計算したりする力	37	41	41	27	9	155	78
46. 家庭生活や社会生活を向上させる力	30	45	59	17	5	156	75
34. 国語を正しく理解する力	28	40	54	29	3	154	68
35. 日本の文化と伝統を大切に思う心	23	44	53	27	8	155	67
32. 国語を尊重する態度	26	33	63	25	6	153	59
33. 正しい言葉で適切に表現する力	25	33	48	45	6	157	58
36. 世界と日本とのかかわりについての知識	11	30	60	38	15	154	41
37. 諸外国の文化を大切に思う心	11	30	52	41	19	153	41
38. 諸外国の文化についての知識	7	27	51	48	23	156	34
生きる力に関わる事項							
54. ボランティア活動を大切にすること	40	54	34	22	3	153	94
47. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	54	36	48	18	0	156	90
55. 郷土や国を愛する心	50	34	50	20	2	156	84
52. コンピュータを活用する力	38	44	45	19	8	154	82
51. 道徳を大切にすること	39	37	49	26	4	155	76
50. たくましい体力	32	41	46	28	8	155	73
53. 身に付けた知識や技能を活用する力	25	39	62	24	4	154	64
56. 世界の平和や国際親善に努める心	32	28	57	29	8	154	60
40. 社会のできごとを公正に考える力	17	42	55	30	8	152	59
合計	1814	2352	2898	1429	278	8771	
						N = 159	

表4 子供の持つ資質や能力 5年生全体

資質や能力	十分を持つ やや多く持つ ふうんを持つ 少し足りない 全く持たない					小計	AとB
	A	B	C	D	E		
心に関わる事項							
7. 生命を尊重する心	114	89	103	24	2	332	203
3. 自然を愛する心	108	91	85	44	4	332	199
9. 感謝の心	82	111	107	31	4	335	193
8. 他人を思いやる心	64	113	104	49	3	333	177
6. 優れているものに感動する心	72	93	115	44	8	332	165
5. 美しいものに感動する心	86	74	101	57	18	336	160
13. 豊かな心	57	95	124	48	10	334	152
2. 知識を求める心	52	97	115	59	10	333	149
12. 健やかな心	52	91	142	43	9	337	143
1. 正しいことを大切にすること	28	99	157	48	4	336	127
10. 公共のために尽くす心	26	79	139	77	12	333	105
態度に関わる事項							
14. 自然に対する興味や関心	107	88	89	44	5	333	195
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める心	72	92	108	52	10	334	164
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度	69	91	114	47	14	335	160
15. 社会に対する興味や関心	55	85	97	79	16	332	140
21. 社会のきまりを守る態度	46	94	114	63	18	335	140
19. 強い意志と実行する力	56	84	116	64	15	335	140
生活に関わる事項							
22. 良いこととわるいことの判断	97	87	90	50	10	334	184
18. 自分の生き方を自分で考える態度	79	103	90	50	10	332	182
4. 自分の力で物事をやっていこうとする心	50	97	112	72	4	335	147
20. 日常生活のしかた	55	89	119	53	13	329	144
11. 自分の感情をおさえる心	44	93	119	66	10	332	137
27. 生活を向上させる知識や方法	38	85	144	55	10	332	123
23. だれに対しても同じように接する態度	45	68	121	80	15	329	113
39. 民主的社会の一員としての自覚	25	62	116	89	41	333	87
学習の仕方に関わる事項							
28. 音声や絵図などで表現する力	80	99	90	54	6	329	179
26. 新しいことを考え出す力	72	104	103	44	9	332	176
24. 学習に対するやる気	47	103	111	60	12	333	150
30. 問題を自分の力で解決する力	57	83	110	74	11	335	140
29. 学習したことの知識	29	92	128	68	16	333	121
31. 分からないことがらを自分の力で探し出す力	36	79	126	70	18	329	115
25. すじみちを立てて考える力	40	74	143	66	9	332	114
各教科等に関わる事項							
44. 図画工作が好き	170	70	46	23	19	328	240
43. 音楽が好き	164	53	63	25	25	330	217
48. 運動に親しむ習慣	129	76	78	35	9	327	205
42. 理科で考えたり観察したりする力	99	100	74	49	7	329	199
49. 健やかな身体	96	95	85	40	14	330	191
45. 芸術に対する豊かな心	86	90	95	39	17	327	176
41. 算数で考えたり計算したりする力	84	85	94	50	17	330	169
46. 家庭生活や社会生活を向上させる力	57	85	127	44	16	329	142
35. 日本の文化と伝統を大切に思う心	63	78	111	59	20	331	141
34. 国語を正しく理解する力	53	84	107	68	19	331	137
32. 国語を尊重する態度	49	72	122	59	23	325	121
33. 正しい言葉で適切に表現する力	47	67	116	83	21	334	114
36. 世界と日本とのかかわりについての知識	26	65	113	87	38	329	91
37. 諸外国の文化を大切に思う心	26	56	116	83	44	325	82
38. 諸外国の文化についての知識	15	51	111	94	57	328	66
生きる力に関わる事項							
47. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	119	81	87	38	3	328	200
55. 郷土や国を愛する心	102	79	99	45	8	333	181
52. コンピュータを活用する力	89	89	85	33	31	327	178
50. たくまい体力	87	84	88	50	18	327	171
54. ボランティア活動を大切にすること	68	100	88	54	14	324	168
51. 道徳を大切にすること	71	80	112	50	15	328	151
53. 身に付けた知識や技能を活用する力	54	89	120	53	13	329	143
56. 世界の平和や国際親善に努める心	69	64	116	51	25	325	133
40. 社会のできごとを公正に考える力	37	84	121	59	22	323	121
合計	3800	4761	6026	3095	851	18533	

N=336

3. 各事項の状況

前のページの表4により、各事項の状況を把握しておきたい。

(1) 心に関わる事項

生命尊重、自然愛護、感謝の心、他を思いやる心は持っている。しかしながら、公共のために尽くす、美しいものに感動する、知識を求める心などは少ないとしている。

(2) 態度に関わる事項

自然に対する興味や関心、自己実現の態度などはある。しかしながら、社会に対する興味や関心、社会の決まりを守る態度などは少ないとしている。

(3) 生活に関わる事項

図1の通り、善悪の判断や生き方を考える力はあるとし、公平に接する態度や民主的社会の一員としての自覚は少ないとしている。

(4) 学習の仕方に関わる事項

表現する力や創造する力はあるとし、探究する力や問題解決の力は少ないとしている。

(5) 各教科等に関わる事項

図画工作や音楽が好きで、運動に親しむ習慣があり、理科で考えたり、観察したりする力があり、健やかな身体を持っているとしている。

一方、諸外国の文化についての知識がなく、諸外国の文化を大切にする心に乏しく、世界と日本の関わりについての知識が少ないとしている。

(6) 生きる力に関わる事項

健康で安全な生活を続ける習慣があり、郷土や国を愛する気持ちがある。また、コンピュータを活用する力もある。

一方、社会事象を公正に考える力、世界の平和や、国際親善に努める心に欠け、ボランティア活動を大切にする心が少ないとしている。

56項目全体を通して、子供の意識を見ると、

(7) 持っている力とするもの

ここで、12項目挙げたところ、次ページの図2の通り、音楽、図画工作等の芸術に関する項目、運動・健康に関する項目、自然に関する項目などが持っている力に該当する。

(8) 持っていないとする力

ここでも、12項目挙げたところ、次ページの図3の通り、諸外国の文化に関すること、世界のこと、社会のこと、言語に関することなどが該当し、また、公共のために尽くす、だれとでも公平に接する等も持っていないとしている。

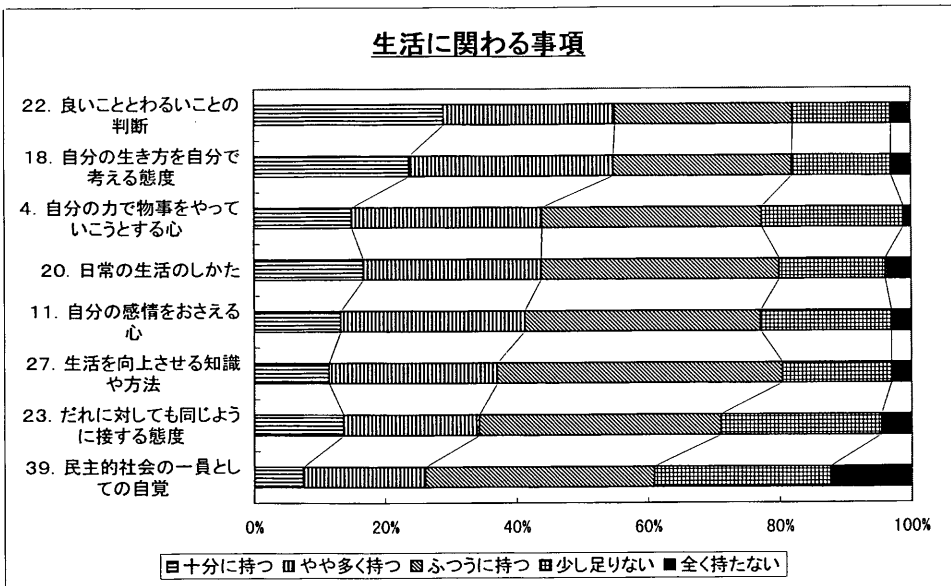


図1 生活に関わる事項 5年生全体

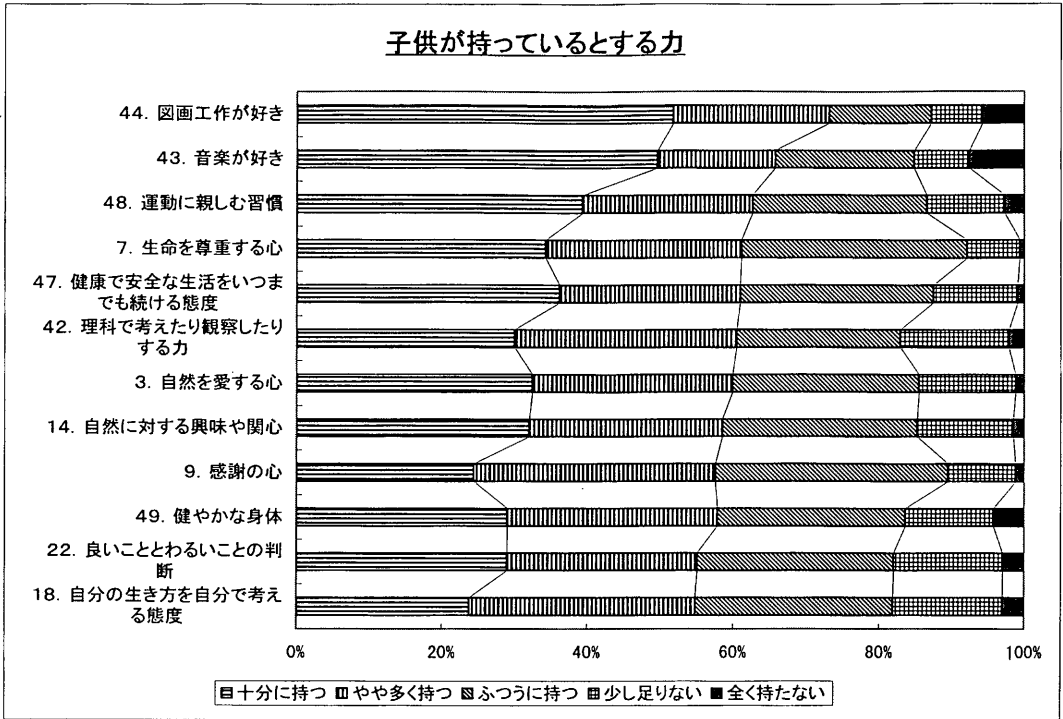


図2 子供が持っているとする力 5年生全体

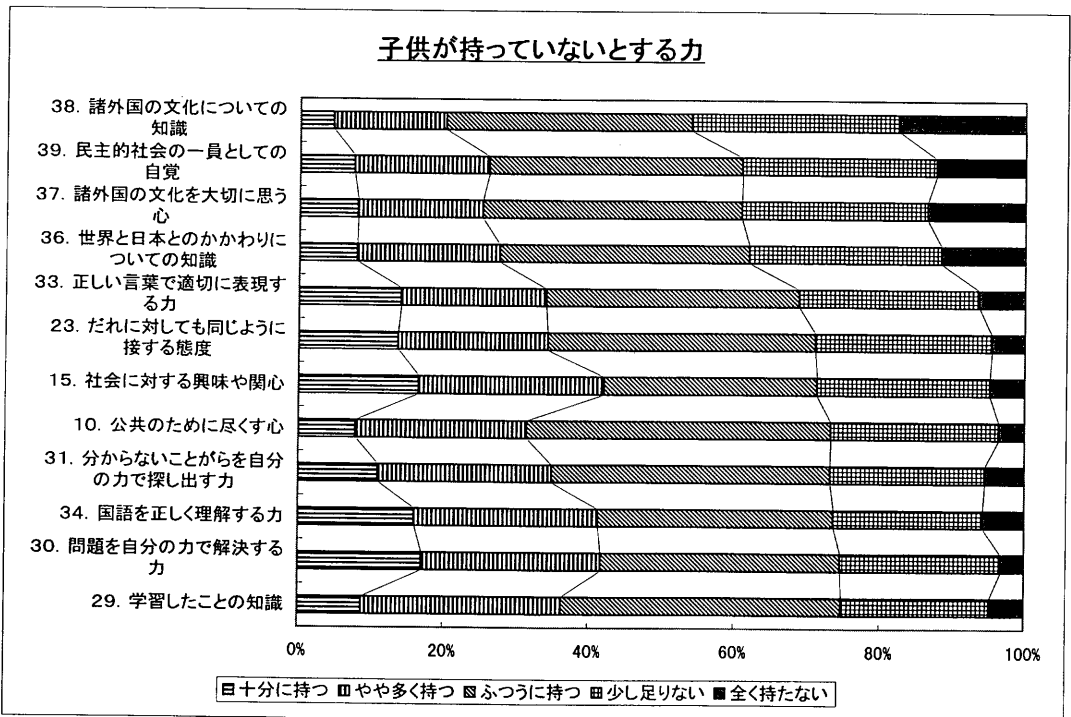


図3 子供が持っていないとする力 5年生全体

Ⅲ 幼児に関する調査

高橋 裕子

平成9年度から、幼児に関わる事項についても調査を開始した。調査の内容、方法、結果、考察について記述する。

1. 資質や能力の項目の抽出

伸長をはかりたい子供の資質や能力、態度について、小学生より年齢の低い幼児の段階では、どのような事柄が重視されているのかを調べる事を目的として今回の調査を計画した。

調査項目は、平成元年度改訂の「幼稚園教育要領」を分析し、幼児期に育てたい資質や能力、態度の項目を客観的に抽出した。

「幼稚園教育要領」では、幼児期の特性をその生活と発達の側面からとらえ、その教育の基本を「環境を通して行う教育」に置いている。それに関連して、最も重視すべき事項として、

- ・幼児期にふさわしい生活の展開
- ・遊びを通しての総合的な指導
- ・一人一人の特性に応じた指導

の3点をあげ、これらをふまえての幼稚園教育の目標を5領域としてまとめている。

これを生かし、今回の調査においても、抽出した88項目を下記のように5領域に分類した。

(1) 心身の健康に関する領域「健康」16項目

- ① 体験を通して自己の生活を確立する。
- ② 身体的な発達の基礎をつくる。
- ③ 運動機能の発達。
- ④ 活動性の高まり。
- ⑤ 幼児自身が自らの生活と関連付けながら、必要感をもって身に付ける。
- ⑥ 幼児の心の安定。
- ⑦ 自ら健康、安全で幸福な生活をつくりだしていこうとする力の基礎を培う。
- ⑧ 心や体を動かして活動をつくりだし、展開する。
- ⑨ 自発的な活動としての遊びをする。

- ⑩ 遊ぶことを通して、達成感、挫折感、葛藤、充足感を味わう
- ⑪ 教師に温かく見守られているという信頼感をもつ。
- ⑫ 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度。
- ⑬ 生きること喜びを感じる。
- ⑭ 取り組む充実感や満足感を味わいながら健康な体をつくる。
- ⑮ 人への愛情や信頼感をもつ。
- ⑯ 全身で物事に取り組み、活動に没頭する。

(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」

19項目

- ① 主体性を身に付ける。
- ② 教師や友達と様々な活動を楽しく展開する。
- ③ 多様な人々との出会いやかかわり。
- ④ 大勢の友達と活動を展開する充実感。
- ⑤ 集団生活の場で共通の興味や目的をもって生活を展開する。
- ⑥ 友達関係を広げる。
- ⑦ 友達の大切さに気付く。
- ⑧ 友達のかかわりを通して様々な感情を体験する。
- ⑨ 相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気付く。
- ⑩ 社会的態度を身に付ける。
- ⑪ 協力して活動に取り組む。
- ⑫ 他の幼児と支え合って生活する。
- ⑬ 依存と自立との関係を十分に体験する。
- ⑭ してはならないことに気付く。
- ⑮ 自分のイメージと交流しながら、一緒に活動を展開する。
- ⑯ 親や教師の言動や態度の模倣。
- ⑰ 友達や物語の主人公への同一化。
- ⑱ 友達と十分にかかわった生活をする。
- ⑲ 教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう。

(3) 身近な環境に関する領域「環境」21項目

- ① 興味や関心の幅を広げる。
- ② 自分の生活を広げていこうとする意欲。
- ③ 様々な出来事や文化とであう。
- ④ 知的好奇心や探究心を満足させる。
- ⑤ 自分でよく見たり取り扱ったりする。
- ⑥ 好奇心や探求心といった知的な発達。
- ⑦ 生活がより豊かに楽しく展開できる。
- ⑧ 環境にかかわって、主体性を十分に発揮して展開する。
- ⑨ 行動範囲を拡大する。
- ⑩ 自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。
- ⑪ 興味を抱き、知的好奇心を呼び起こす。
- ⑫ 生活の中で知識や技能を教えられて身に付ける。
- ⑬ 興味や関心を持った対象と十分にかかわり合う。
- ⑭ 生活を自立する。
- ⑮ 自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験。
- ⑯ 自分の力で様々な活動に取り組む体験。
- ⑰ 幼児自身が環境とかかわって遊びを展開する。
- ⑱ 自然に対して興味や関心をもつ。
- ⑲ 自然などの身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。
- ⑳ 身近な環境を大事にしようとする心。
- ㉑ 自分から興味や関心をもって環境に主体的、意欲的に関わる。

(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」16項目

- ① 言葉を獲得し表現する喜びを味わう。
- ② 人と言葉を交わす楽しさを十分に味わう。
- ③ 互いに見たり聞いたりしたことなどを様々な方法で伝え合う。
- ④ イメージを伝え合う。
- ⑤ コミュニケーションを図る。
- ⑥ コミュニケーションの手段としての言

葉を人とのかかわりを通して獲得する。

- ⑦ 日常生活の中で言葉への興味や関心をもつ。
- ⑧ 言葉の楽しさや美しさに触れる。
- ⑨ 喜んで話したり聞いたりする態度。
- ⑩ 自分の思ったことや感じたことを伝えあう。
- ⑪ 言葉に対する感覚。
- ⑫ 絵本や物語に親しむ。
- ⑬ 教師の話掛ける言葉に触れる。
- ⑭ 日常生活に必要な簡単な標識や文字に関心をもつ。
- ⑮ 体験を通して、話したり聞いたりする。
- ⑯ 親しみをもって日常のあいさつをする。

(5) 感性と表現に関する領域「表現」16項目

- ① 自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ。
- ② 親や教師などの親しみをもっている大人の行動を模倣する。
- ③ 十分に自己を発揮する。
- ④ 創造性を豊かにする。
- ⑤ 物事に自分からかかわろうとする意欲をもつ。
- ⑥ 情緒や社会性といった人格形成の基礎を確立する。
- ⑦ 様々な活動を展開し充実感を味わう。
- ⑧ 豊かに表現しようとする意欲が高まる。
- ⑨ 互いの感情や意志を表現したり共感したりする。
- ⑩ 友達と生活を共にしながら感動を共有する。
- ⑪ 人間形成の基礎となる豊かな心情をもつ。
- ⑫ 豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
- ⑬ かいったりつくったりすることを楽しむ。
- ⑭ 歌をうたったり簡単なリズム楽器を使う。
- ⑮ 想像する力。

2. 調査の実施方法

調査対象は、幼稚園での生活の中で、幼児と密接な保育者を対象に選んだ。また、これから保育者を目指して勉強中の児童学科学生にも同じ項目での調査を試みた。

調査方法は、保育に当たる場合、大事に思っている幼児の資質、能力、態度、心情についての質問紙法をとった。

抽出した88項目について、表5のような調査用紙を作成し、重視したい項目にそれぞれの領

域ごとに3項目を選択し、○印をつけるよう依頼した。

調査は、東京近辺の公立幼稚園16園と市立幼稚園12園、計28園に勤務する保育者、及び本学児童学科4年生に実施した。

調査日程・調査人数は下記の通りである。

(1) 学4児童・児教(158名)

H9年6月下旬

(2) 幼稚園保育者(23園・137名)

H9年10月初旬～H9年11月中旬

表5 調査用紙 その1 対象(幼稚園 保育者)

幼稚園名(公・私)立()月(平成9年 月 日現在)
 経験年数[]年[]月(平成9年 月 日現在)

(1) 現在の幼児にとって、どのような資質や能力並びに態度を育てることが必要とお考えですか。次の各項目ごとに、とくに育てたいものを各領域それぞれ3項目選んで、()に○印を記入してください。

1. 心身の健康に関する領域「健康」

2. () 身体的な発達を確立する。

3. () 運動機能の発達。 4. () 活動性の高まり。 5. () 幼児自身が自らの生活と関連付けながら、必要感をもって身に付ける。

6. () 幼児の心の安定。 7. () 自ら健康、安全で幸福な生活をつくりだしていこうとする力の基礎を培う。

8. () 心や体を動かして活動をつくりだし、展開する。 9. () 自発的な活動としての遊びをする。

10. () 遊ぶことを通じて、達成感、挫折感、葛藤、充足感を味わう。 11. () 教師に温かく見守られているという信頼感をもつ。

12. () 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度。 13. () 生きること喜びを感じる。

14. () 取り組む充実感や満足感を味わいながら健康な体をつくる。 15. () 人への愛情や信頼感をもつ。

16. () 全身で物事に取り組み、活動に没頭する。

2. 人とのかかわりに関する領域「人間関係」

1. () 主体性を身に付ける。 2. () 教師や友達と様々な活動を楽しく展開する。

3. () 多様な人々との出会いやかかわり。 4. () 大勢の友達と活動を展開する充実感。

5. () 集団生活の場で共通の興味や目的をもって生活を展開する。 6. () 友達関係を広げる。

7. () 友達の大切さに気付く。 8. () 友達のかかわりを通して様々な感情を体験する。

9. () 相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気付く。 10. () 社会的態度を身に付ける。

11. () 協力して活動に取り組む。 12. () 他の幼児と支え合って生活する。

13. () 依存と自立との関係を十分に体験する。 14. () してはならないことに気付く。

15. () 自分のイメージと交流しながら、一緒に活動を展開する。 16. () 親や教師の言動や態度の模倣。

17. () 友達や物語の主人公への同一化。 18. () 友達と十分にかかわった生活をする。

19. () 教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう。

3. 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」

1. () 興味や関心の幅を広げる。 2. () 自分の生活を広げていこうとする意欲。

3. () 様々な出来事や文化とであらう。 4. () 知的好奇心や探求心を満足させる。

5. () 自分でよく見たり取り扱ったりする。 6. () 好奇心や探求心といった知的な発達。

7. () 生活がよく豊かに楽しく展開できる。 8. () 環境にかかわって、主体性を十分に発揮して展開する。

9. () 行動範囲を拡大する。 10. () 自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。

11. () 興味を抱き、知的好奇心と呼び起こす。 12. () 生活の中で知識や技能を教えられて身に付ける。

13. () 興味や関心を持った対象と十分にかかわり合う。 14. () 生活を自立する。

15. () 自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験。 16. () 自分の力で様々な活動に取り組む体験。

17. () 幼児自身が環境とかわって遊びを展開する。 18. () 自然に対して興味や関心をもつ。

19. () 自然などの身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。 20. () 身近な環境を大事にしようとする心。

21. () 自分から興味や関心をもって環境に主体的、意欲的にかかわる。

4. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

1. () 言葉を獲得し表現する喜びを味わう。 2. () 人と言葉を交わす楽しさを十分に味わう。

3. () 互いに見たり聞いたことなどを様々な方法で伝え合う。 4. () イメージを伝え合う。

5. () コミュニケーションを図る。 6. () コミュニケーションの手段としての言葉を人とのかかわりを通して獲得する。

7. () 日常生活の中で言葉への興味や関心をもつ。 8. () 言葉の楽しさや美しさに触れる。

9. () 喜んで話したり聞いたりする態度。 10. () 自分の思ったことや感じたことを伝えあう。

11. () 言葉に対する感情。 12. () 絵本や物語に親しむ。

13. () 教師の話掛ける言葉に触れる。 14. () 日常生活に必要な簡単な構文や文字に関心をもつ。

15. () 体験を通して、話したり聞いたりする。 16. () 親しみをもって日常のあいさつをする。

5. 感性と表現に関する領域「表現」

1. () 自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ。 2. () 親や教師などの親しみをもって大人の行動を模倣する。

3. () 十分に自己を発揮する。 4. () 創造性を豊かにする。

5. () 物事に自分からかわろうとする意欲をもつ。 6. () 情緒や社会性といった人格形成の基礎を確立する。

7. () 様々な活動を展開し充実感を味わう。 8. () 豊かに表現しようとする意欲が高まる。

9. () 互いの感情や意志を表現したり共感したりする。 10. () 友達と生活を共にしながら感動を共有する。

11. () 人間形成の基礎となる豊かな心情をもつ。 12. () 豊かな心情や思考力の芽生えを培う。

13. () いかたりつくりたりすることを楽しむ。 14. () 歌をうたったり簡単なリズム楽器を使う。

15. () 想像する力。 16. () 自分のイメージを演じて遊ぶ。

3. 調査の結果

10年以上、及び学生をそれぞれカテゴリーとし

調査結果は、表5のとおりである。保育者に 比較した。

については、経験年数を、3年未満、3年～10年、

表6-1 アンケート集計表

	保育者				cf.	
	3年未	3～10	10年超	(不明)	合計	学生
調査人数	30	62	39	6	137	158

1. 心身の健康に関する領域「健康」

- 1 体験を通して自己の生活を確立する。
- 2 身体的な発達の基礎をつくる。
- 3 運動機能の発達。
- 4 活動性の高まり。
- 5 幼児自身が自らの生活と関連付けながら、必要感をもって身に付ける。
- 6 幼児の心の安定。
- 7 自ら健康、安全で幸福な生活をつくりだしていこうとする力の基礎を培う。
- 8 心や体を働かせて活動をつくりだし、展開する。
- 9 自発的な活動としての遊びをする。
- 10 遊ぶことを通して、達成感、挫折感、葛藤、充足感を味わう
- 11 教師に温かく見守られているという信頼感をもつ。
- 12 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度。
- 13 生きること喜びを感じる。
- 14 取り組む充実感や満足感を味わいながら健康な体をつくる。
- 15 人への愛情や信頼感をもつ。
- 16 全身で物事に取り組み、活動に没頭する。

4	9	11	4	28	13
2	3	4	1	10	10
0	2	0	0	2	5
0	2	0	0	2	0
4	9	10	2	25	6
12	28	13	1	54	49
4	9	9	0	22	6
5	8	6	0	19	8
10	17	1	0	28	21
11	33	20	3	67	54
1	2	5	0	8	10
8	13	14	2	37	37
3	1	2	0	6	10
12	15	6	1	34	15
13	30	11	4	58	60
1	2	3	0	6	2

2. 人とのかかわりに関する領域「人間関係」

- 1 主体性を身に付ける。
- 2 教師や友達と様々な活動を楽しく展開する。
- 3 多様な人々との出会いやかかわり。
- 4 大勢の友達と活動を展開する充実感。
- 5 集団生活の場で共通の興味や目的をもって生活を展開する。
- 6 友達関係を広げる。
- 7 友達の大切さに気付く。
- 8 友達のかかわりを通して様々な感情を体験する。
- 9 相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気付く。
- 10 社会的態度を身に付ける。
- 11 協力して活動に取り組む。
- 12 他の幼児と支え合って生活する。
- 13 依存と自立との関係を十分に体験する。
- 14 してはならないことに気付く。
- 15 自分のイメージと交流しながら、一緒に活動を展開する。
- 16 親や教師の喜動や態度の模倣。
- 17 友達や物語の主人公への同一化。
- 18 友達と十分にかかわった生活をする。
- 19 教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう

3	13	6	0	22	13
6	17	5	1	29	23
6	7	7	2	22	26
6	5	2	1	14	7
4	9	3	4	20	16
2	1	1	0	4	4
4	6	2	0	12	25
20	41	24	3	88	52
14	25	26	2	67	44
2	5	5	0	12	9
3	3	1	0	7	15
1	1	4	1	7	4
1	2	2	1	6	4
3	4	2	1	10	32
2	4	2	0	8	5
0	1	0	0	1	1
0	0	0	0	0	0
1	10	3	0	14	4
10	29	21	2	62	36

3. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

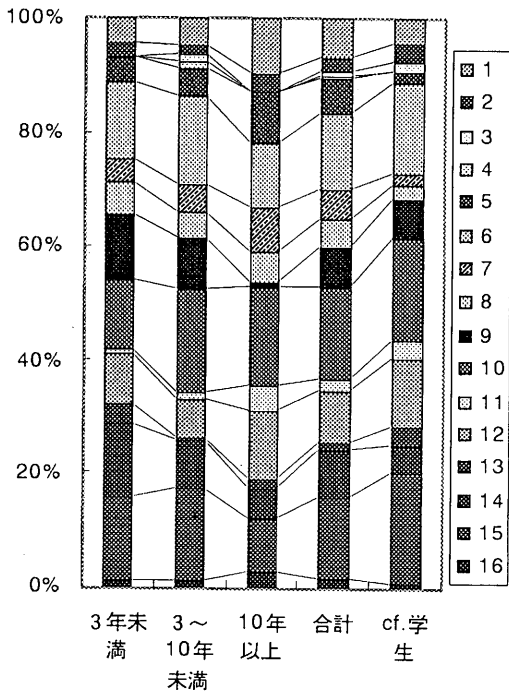
- 1 興味や関心の幅を広げる。
- 2 自分の生活を広げていこうとする意欲。
- 3 様々な出来事や文化とであらう。
- 4 知的好奇心や探求心を満足させる。
- 5 自分でよく見たり取り扱ったりする。
- 6 好奇心や探求心といった知的な発達。
- 7 生活がより豊かに楽しく展開できる。
- 8 環境にかかわって、主体性を十分に発揮して展開する。
- 9 行動範囲を拡大する。
- 10 自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。
- 11 興味を抱き、知的好奇心を呼び起こす。
- 12 生活の中で知識や技能を教えられて身に付ける。
- 13 興味や関心を持った対象と十分にかかわり合う。

2	12	4	1	19	15
1	2	3	0	6	6
2	1	0	1	4	15
3	7	4	1	15	13
1	3	7	0	11	11
1	1	3	0	5	6
2	8	3	1	14	13
4	5	4	0	13	7
0	1	1	0	2	6
10	26	19	4	59	30
4	4	2	0	10	8
1	0	1	0	2	6
9	19	8	1	37	17

伸長を図りたい子供の持つ可能性

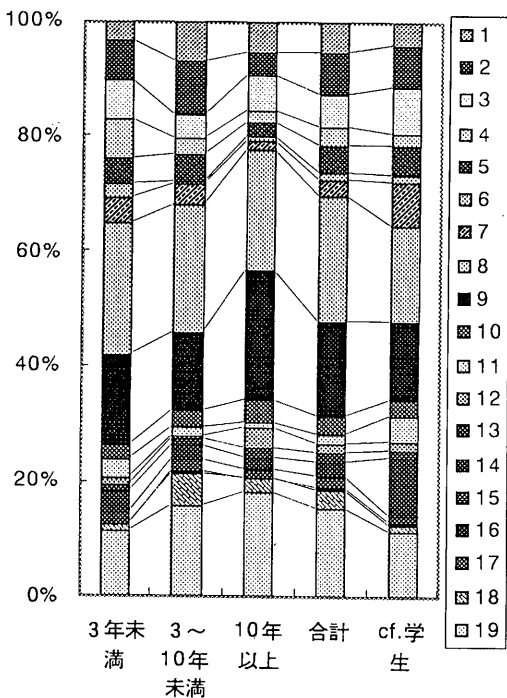
表6-2 アンケート集計表

	保育者				cf.	
	3年未	3~10	10年超	(不明)	合計	学生
調査人数	30	62	39	6	137	158
14 生活を自立する。	0	0	1	0	1	3
15 自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験。	8	14	10	0	32	27
16 自分の力で様々な活動に取り組む体験。	4	7	6	1	18	9
17 幼児自身が環境とかかわって遊びを展開する。	4	6	5	1	16	22
18 自然に対して興味や関心をもつ。	3	11	1	0	15	17
19 自然などの身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。	12	21	10	3	46	34
20 身近な環境を大事にしようとする心。	4	12	3	1	20	27
21 自分から興味や関心をもって環境に主体的、意欲的にかかわる。	10	24	20	3	57	33
4. 言葉の獲得に関する領域「言葉」						
1 言葉を獲得し表現する喜びを味わう。	1	5	7	1	14	22
2 人と言葉を交わす楽しさを十分に味わう。	12	23	19	1	55	46
3 互いに見たり聞いたりしたことなどを様々な方法で伝え合う。	7	9	6	2	24	15
4 イメージを伝え合う。	1	1	0	0	2	2
5 コミュニケーションを図る。	1	2	1	0	4	8
6 コミュニケーションの手段としての言葉を人とのかかわりを通して獲得する。	8	19	11	2	40	21
7 日常生活の中で言葉への興味や関心をもつ。	7	10	5	2	24	19
8 言葉の楽しさや美しさに触れる。	0	3	4	2	9	11
9 喜んで話したり聞いたりする態度。	9	21	13	2	45	40
10 自分の思ったことや感じたことを伝えあう。	19	43	21	3	86	63
11 言葉に対する感覚。	0	2	1	0	3	4
12 絵本や物語に親しむ。	11	18	16	1	46	29
13 教師の話掛ける言葉に触れる。	1	0	1	0	2	1
14 日常生活に必要な簡単な標識や文字に関心をもつ。	2	2	2	1	7	4
15 体験を通して、話したり聞いたりする。	4	12	6	0	22	13
16 親しみをもって日常のあいさつをする。	7	15	7	1	30	29
5. 感性と表現に関する領域「表現」						
1 自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ。	7	15	11	1	34	24
2 親や教師などの親しみをもって大人の行動を模倣する。	0	2	1	0	3	2
3 十分に自己を発揮する。	9	19	19	2	49	26
4 創造性を豊かにする。	7	12	5	3	27	33
5 物事に自分からかわろうとする意欲をもつ。	9	9	4	0	22	17
6 情緒や社会性といった人格形成の基礎を確立する。	5	7	5	0	17	9
7 様々な活動を展開し充実感を味わう。	6	17	0	0	23	17
8 豊かに表現しようとする意欲が高まる。	0	8	7	1	16	8
9 互いの感情や意志を表現したり共感したりする。	10	30	13	2	55	34
10 友達と生活を共にしながら感動を共有する。	15	28	19	3	65	34
11 人間形成の基礎となる豊かな心情をもつ。	8	7	16	3	34	23
12 豊かな心情や思考力の芽生えを培う。	6	21	13	2	42	28
13 かいりたりつくったりすることを楽しむ。	1	5	1	1	8	23
14 歌をうたったり簡単なリズム楽器を使う。	4	3	0	0	7	16
15 想像する力。	2	3	2	0	7	18
16 自分のイメージを演じて遊ぶ。	1	0	0	0	1	14



1. 体験を通して自己の生活を確立する。
2. 身体的な発達の基礎をつくる。
3. 運動機能の発達。
4. 動性の高まり。
5. 幼児自身が自らの生活と関連付けながら、必要感をもって身に付ける。
6. 幼児の心の安定。
7. 自ら健康、安全で幸福な生活をつくりだしていることとする力の基礎を培う。
8. 体を働かせて活動をつくりだし、展開する。
9. 自発的な活動としての遊びをする。
10. 遊ぶことを通して、達成感、挫折感、葛藤、充足感を味わう。
11. 教師に温かく見守られているという信頼感をもつ。
12. 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度。
13. 生きることによって喜びを感じる。
14. 取り組む充実感や満足感を味わいながら健康な体をつくる。
15. 人への愛情や信頼感をもつ。
16. 全身で物事に取り組み、活動に没頭する。

図4 心身の健康に関する領域「健康」



1. 主体性を身に付ける。
2. 教師や友達と様々な活動を楽しく展開する。
3. 多様な人々との出会いやかかわり。
4. 大勢の友達と活動を展開する充実感。
5. 集団生活の場で共通の興味や目的をもって生活を展開する。
6. 友達関係を広げる。
7. 友達の大切さに気付く。
8. 友達のかわりを通して様々な感情を体験する。
9. 相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気付く。
10. 社会的態度を身に付ける。
11. 協力して活動に取り組む。
12. 他の幼児と支え合って生活する。
13. 依存と自立との関係を十分に体験する。
14. してはならないことに気付く。
15. 自分のイメージと交流しながら、一緒に活動を展開する。
16. 親や教師の言動や態度の模倣。
17. 友達や物語の主人公への同一化。
18. 友達と十分にかかわった生活する。
19. 教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう。

図5 人との関わりに関する領域「人間関係」

伸長を図りたい子供の持つ可能性

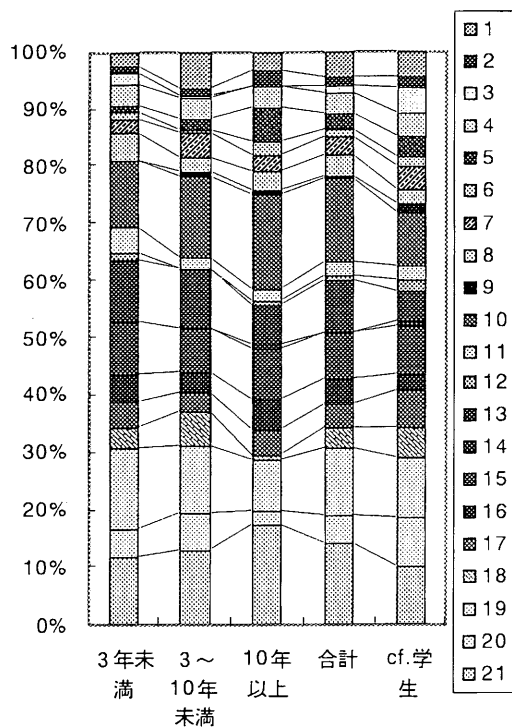


図6 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

1. 興味や関心の幅を広げる。
2. 自分の生活を広げていこうとする意欲。
3. 様々な出来事や文化とであらう。
4. 知的好奇心や探究心を満足させる。
5. 自分でよく見たり取り扱ったりする。
6. 好奇心や探求心といった知的な発達。
7. 生活がより豊かに楽しく展開できる。
8. 環境にかかわって、主体性を十分に発揮して展開する。
9. 行動範囲を拡大する。
10. 自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。
11. 興味を抱き、知的好奇心を呼び起こす。
12. 生活の中で知識や技能を教えられて身に付ける。
13. 興味や関心を持った対象と十分にかかわり合う。
14. 生活を自立する。
15. 自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験。
16. 自分の力で様々な活動に取り組む体験。
17. 幼児自身が環境とかわって遊びを展開する。
18. 自然に対して興味や関心をもつ。
19. 自然などの身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。
20. 身近な環境を大事にしようとする心。
21. 自分から興味や関心をもって環境に主体的、意欲的にかかわる。

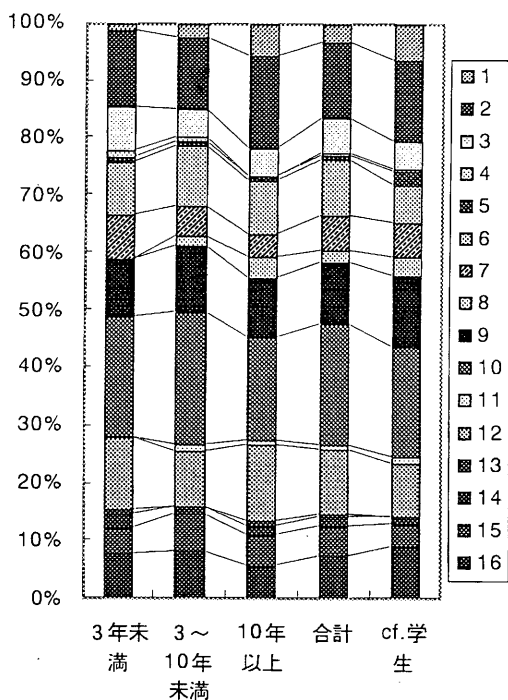


図7 言葉の獲得に関する領域「言葉」

1. 言葉を獲得し表現する喜びを味わう。
2. 人と言葉を交わす楽しさを十分に味わう。
3. 互いに見たり聞いたりしたことなどを様々な方法で伝え合う。
4. イメージを伝え合う。
5. コミュニケーションを図る。
6. コミュニケーションの手段としての言葉を人とのかかわりを通して獲得する。
7. 日常生活の中で言葉への興味や関心をもつ。
8. 言葉の楽しさや美しさに触れる。
9. 喜んで話したり聞いたりする態度。
10. 自分の思ったことや感じたことを伝えあう。
11. 言葉に対する感覚。
12. 絵本や物語に親しむ。
13. 教師の話掛ける言葉に触れる。
14. 日常生活に必要な簡単な標識や文字に関心をもつ。
15. 体験を通して、話したり聞いたりする。
16. 親しみをもって日常のあいさつをする。

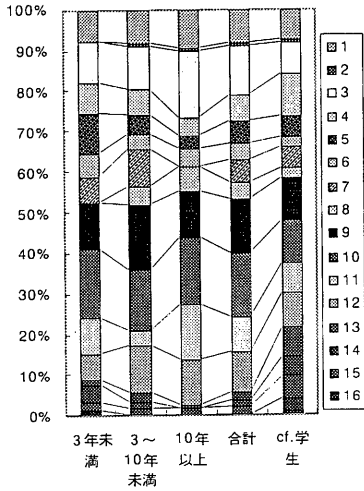


図8 感性と表現に関する領域「表現」

4. 考察

各領域ごとに考察を行った結果は、次のようにまとめられた。

(1) 領域「健康」

保育者、学生ともに最も重視していると答えている項目の第3位まであげる。

⑩遊ぶことを通して、達成感、挫折感、葛藤、充足感を味わう。⑮人への愛情や信頼感をもつ。⑥幼児の心の安定。の3項目である。保育者は、幼児の健康を体より心の健康を重視していると言える。

保育年数による差は、あまり認められないが、しいてあげれば、経験年数が多い保育者ほど選択している項目は、

⑦自ら健康、安全で幸福な生活をつくりだしていこうとする力の基礎を培う。や⑫健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度。の2項目があげられる。

また、経験年数が少ない保育者ほど選択している項目に、

⑨自発的な活動としての遊びをする。や、⑭取り組む充実感や満足感を味わいながら健康な体をつくる。があげられることから、保育年数の多い保育者は、今の心身の状態より、将来に向かっての基礎的な事柄を重視した保育を目差している、と言えるのではないだろうか。

1. 自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ。
2. 親や教師などの親しみをもって大人の行動を模倣する。
3. 十分に自己を発揮する。
4. 物事に自分からかかわろうとする意欲をもつ。
- 5.
6. 情緒や社会性といった人格形成の基礎を確立する。
7. 様々な活動を展開し充実感を味わう。
8. 豊かに表現しようとする意欲が高まる。
9. 互いの感情や意志を表現したり共感したりする。
10. 友達と生活を共にしながら感動を共有する。
11. 人間形成の基礎となる豊かな心情をもつ。
12. 豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
13. かいったりつくったりすることを楽しむ。
14. 歌をうたったり簡単なリズム楽器を使う。
15. 想像する力。
16. 自分のイメージを演じて遊ぶ。

(2) 領域「人間関係」

この領域は、選択項目にばらつきがなく、特定の項目に集中しているのが特徴的である。保育者、学生ともに最も重視していると答えている項目の第3位まであげると、

⑧友達のかかわりを通して様々な感情を体験する。⑨相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気づく。⑲教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう。の3項目である。特に、⑧は、学生、保育経験にかかわらず第1位であった。

また、経験年数が多い保育者ほど選択している項目に、

⑲教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう。があげられるが、保育年数が長くなると、保育者の保育技術の向上と同時に、幼児にたいする保育者の存在の大きさを自覚するようになるのではなからうか。

(3) 領域「環境」

学生の回答では、各項目に大きな差がなく、均等に選択されているのが特徴である。

最も重視していると答えている項目の第3位まであげると、

⑩自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。⑫自分から興味や関心をもって環境に主体的、意欲的にかかわる。⑲自然などの

身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。の3項目であるが、特に保育者の選択が顕著であった。

経験年数が少ない保育者ほど選択している項目に、⑬興味や関心をもった対象と十分にかかわり合う。⑭自然などの身近な事象を親しみをもって十分にかかわる。があげられるが、保育の中で幼児をこころゆくまで遊び込ませたいという若い保育者の信条がうかがわれる。

(4) 領域「言葉」

保育経験での差がほとんどみられないのが特徴である。最も重視していると答えている項目の第3位まであげると、

- ⑩自分の思ったことや感じたことを伝えあう。
- ⑫人と言葉を交わす楽しさを十分に味わう。
- ⑨喜んで話したり聞いたりする態度。の3項目である。語彙の多さや内容よりも、話したい気持ちや聞く態度、楽しい会話に重点をおいている。

(5) 領域「表現」

最も重視していると答えている項目の第3位まであげると、

- ⑩友達と生活を共にしながら感動を共有する。
- ⑨互いの感情や意志を表現したり共感したりする。
- ③十分に自己を発揮する。の3項目で、特に③は経験年数10年以上の保育者が多く選択している。

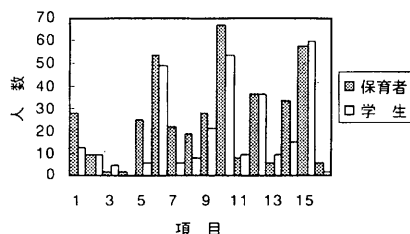
(6) まとめ

- 1) 保育者に比較して、学生は分散が大きい事がわかった。
- 2) 項目に保育経験の年数での差があまり顕著にないのが特徴としてあげられる。
- 3) 偏りのある領域は、「人間関係」「言葉」
- 4) 偏りのない領域「健康」「環境」「表現」

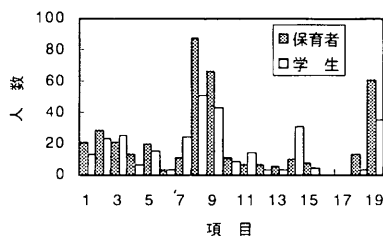
表7 まとめ

		保育者		学生	
調査人数		137人		158人	
	項目数	平均 (人/項目)	標準 偏差	平均 (人/項目)	標準 偏差
1 「健康」	16	25.4	20.5	19.1	19.6
2 「人間関係」	19	21.3	24.3	16.8	15.4
3 「環境」	21	19.1	17.3	15.5	9.7
4 「言葉」	16	25.8	23.7	20.4	17.5
5 「表現」	16	25.6	19.5	20.4	9.5

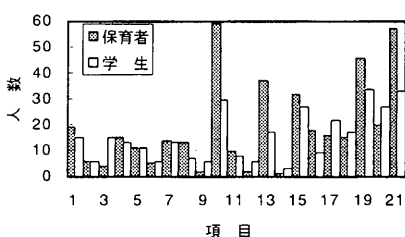
心身の健康に関する領域「健康」



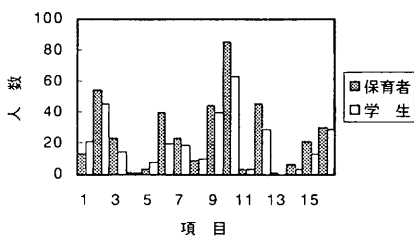
人との関わりに関する領域「人間関係」



身近な環境との関わりに関する領域「環境」



言葉の獲得に関する領域「言葉」



感性と表現に関する領域「表現」

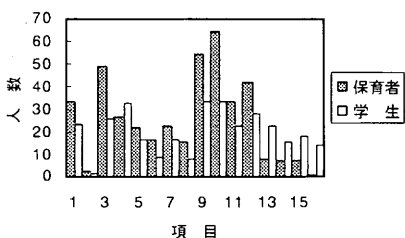


図9 5領域のまとめ

5. 今後の課題

- (1) 今回は、保育者を調査対象としたが、今後は、保護者（父母）の意識を調査し、その結果を今回の結果と比較検討したい。
- (2) より年齢の低い乳児から保育を実践している保育所保育者を対象としての調査も検討したい。

IV まとめと今後の課題

1. まとめ

- ・ 資質・能力並びに態度の抽出の方法においては、特に重視される事項に焦点を当て現在要請されていることは、概ね網羅している。
- ・ 平成8年度、小学校を、平成9年度、幼稚園・小学校を対象にしたことは、本研究について、更に一層の深まりを持たせることができた。
- ・ 平成8年度、現職教員並びに学生の選択は心の教育に関する事項が多い傾向にあった。
- ・ 平成9年度、幼児に関して現職教員は幾つかの項目に焦点化され、学生の選択は各項目への広がりを持っている。
- ・ 児童の関心は各教科等に関する事項に向けられている傾向があると言える。
- ・ 児童が持っていると自覚している生命尊重の心、自然を愛する心、感謝の心、善悪の判断、自らの生き方を自らで考える力については注目したいところである。
- ・ このことは、当グループで計画している子供が有している資質・能力並びに態度をいかに伸長を図るかに通じるものである。

2. 今後の課題

- ・ 調査内容を更に慎重に検討し、幼稚園・小学校について、幼児・児童と教員・保護者等の意識を把握する調査を実施する。
- ・ 特に、幼児については、保護者の考えを把握しておきたいところである。

- ・ 更に、幼児については、保育所の保育の考えも把握しておきたいところである。
- ・ 児童については、教科に関する事項と教育活動一般に関する事項を別項目とし、それぞれに相応の調査を実施する必要がある。
- ・ 質問紙から更に行動観察や面談法による調査を実施する必要がある。
- ・ 研究の対象は子供であることを念頭において、平成10年度の調査研究を推進したいと考えている。

文献等

- (1) 昭和41年 中央教育審議会 答申
- (2) 昭和46年 中央教育審議会 答申
- (3) 昭和51年 教育課程審議会 答申
- (4) 昭和56年 中央教育審議会 答申
- (5) 昭和58年 中央教育審議会 教育内容等小委員会審議経過報告
- (6) 昭和62年 臨時教育審議会 答申
第二次答申
第四次（最終）答申
- (7) 昭和62年 教育課程審議会 答申
- (8) 平成元年 文部省 幼稚園教育要領
- (9) 平成元年 文部省 小学校学習指導要領
- (10) 平成2年 中央教育審議会 答申
- (11) 平成2年 中央教育審議会審議経過報告
- (12) 平成3年 文部省、小・中、児童・生徒指導要録の改訂（通知）
- (13) 平成3年 中央教育審議会 答申
- (14) 平成6年 文部省調査研究協力者会議
「学校五日制について」 審議のまとめ
「学校週五日制」について文部省（通知）
- (15) 平成7年 第15期中央教育審議会発足
「諮問事項」
- (16) 平成8年 中央教育審議会第一小委員会
「審議のまとめ」